和田葉子先生のご退職に寄せて

学部長・研究科長
今　井　裕　之

和田葉子先生が、関西大学で教鞭を最初に取られたのは1982年です。そしてその後、外国語教育研究機構の時代も含めて25年間に渡って、その創設期からずっと外国語学部を支え、牽引してこられました。また、和田先生の研究・教育の枠は学内に留まらず、大阪外国語大学、大阪大学、京都大学大学院にもご出講され、京都大学大学院文学研究科では、現在も客員教授をお務めです。社会活動面では、吹田市の国際交流協会の理事として、地域の国際交流に長年お力を注いでおられ、外国語学部の学生たちに国際交流の機会、成長の機会を与えてくださっています。大学運営面でも、現在、本学法人の評議員をお務めになっておられます。ご自身の学生時代、そしてその後の研究・教育者としてのキャリアを関西大学とともに過ごしてこられた和田葉子先生が、このたび本年2025年3月31日をもってご退職の日を迎えることに強い寂寥の念を禁じ得ません。

和田先生がご専門とされている中世の英語や英文学の世界は、大学院時代の演習で *The Canterbury Tales* を読んで（読めずに）高い壁としか思えなかった私にとっては、越えられなかった壁の向こうの世界です。その分野を研究されている和田先生が見ている世界を少しでも垣間見ることはできないかと、和田先生がケンブリッジ大学大学院時代にご覧になり魅了された「写本」を検索し、先生の論文を読んで、その美しさとチョーサーの偉大さ（薄い表現が私の理解の浅さを物語っていますが）の、ほんの一端を感じることができました。世の中の事物や人の振る舞いに美しさを見いだす審美の眼力と、それを研究に高めていく探究の心を兼ね備えた先生に対して敬意を抱かずにはいられません。

話題は変わりますが、ある年、和田先生の英語授業の後、同じ教室で私が授業をすることがありました。少し早めに教室に到着して教室前の廊下で待機していることがあったのですが、廊下の外へ漏れ聞こえる学生たちの明るい声とともに、和田先生が学生に話す声も聞こえてきました。表現的にも音声的にも洗練された、とても美しい英語でお話しされていたのが強く印象に残っています。盗み聞こうとしたかのようだし（その意図はもちろんありません！）、授業後に急いで交代してくださろうとする先生にも申し訳なく思いつつ、外国語の指導者として、もっと自分の話す言語にこだわりや責任を持たねば！と、意を新たにすることができたことをとても感謝しています。

これからも関西大学法人の評議員としてご尽力くださるとはいえ、教学面では本年が区切り

となることは、同僚一同とても寂しく名残惜しく思っています。思えば、外国語学部でも、関西大学でも、おそらく並ぶ人のいないほど長きに渡って、研究、教育、大学・学部運営にご尽力、ご貢献賜りましたことに、深く感謝申し上げます。また今後とも、我々をお見守りくださり、お力ぞえいただけましたら幸いです。